




- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

-  **警告** ●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
-  **注意** ●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

- お願い** ●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
- ※ ●取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
-  **補足** ●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>

 **警告**

- フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。特に崖上や高台など、転落してケガをするおそれのある場所へは施工しないでください。

お願い

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。

<施工上のご注意>

 **注意**

- 現場でブラケットや継手を組付け・締結する場合は、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故の原因になります。
- 柱と本体ジョイント部の間隔は200mm以内に施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。

<基礎工事について>

 **注意**

- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結材など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は、非塩素系や非アルカリ系混和剤をご使用ください。
- 指定基礎寸法は必ず守ってください。

梱包明細表

【1】 柱セット

名称	略図	員数
柱		1

【2】 上下ブラケットセット

名称	略図	員数
上ブラケット		1
下ブラケット		1
補助プレート		1
柱キャップ		1
裏板		1
【2-1】φ5×16ナベタッピンネジ3種		1
【2-2】φ4×10トラスタッピンネジ3種		1
【2-3】φ4×20サラタッピンネジ2種 D=6 G=5		1

【2】 上下ブラケットセット (つづき)

名称	略図	員数
【2-4】φ4×25ナベドリルネジ		1
取付説明書 (C395)	—	1

【3】 中間ブラケットセット

名称	略図	員数
上ブラケット		1
下ブラケット		1
補助プレート		1
裏板		1
すきま隠し材		2
【3-1】φ5×10トラスタッピンネジ3種		1
【3-2】φ4×20サラタッピンネジ2種 D=6 G=5		1
【3-3】φ4×25ナベドリルネジ		1

【4】 ドリルネジ

名称	略図	員数
【4-1】φ4×30ナベドリルネジ		50

1. 基本寸法図

1-1 2段施工基本図

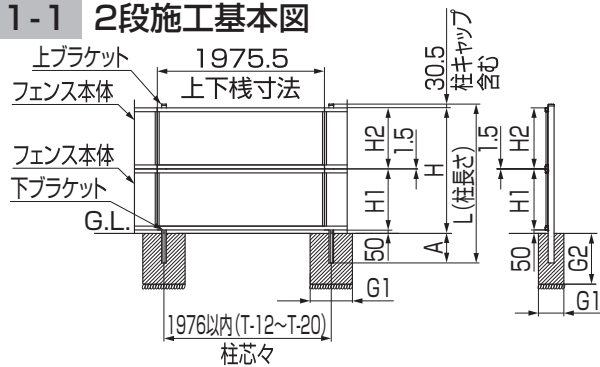


図 1-1 T-10以下のフェンスで組み合わせた場合

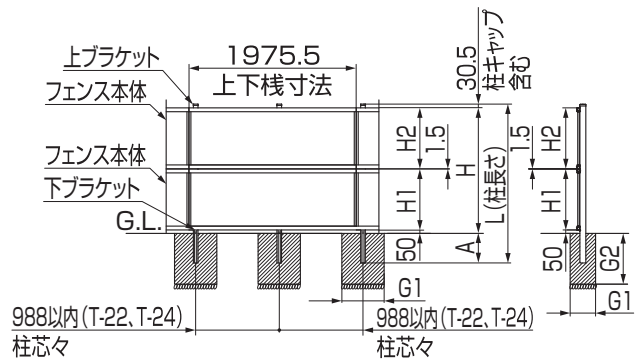


図 1-2 T-12フェンスを含む場合

1-2 3段施工基本図

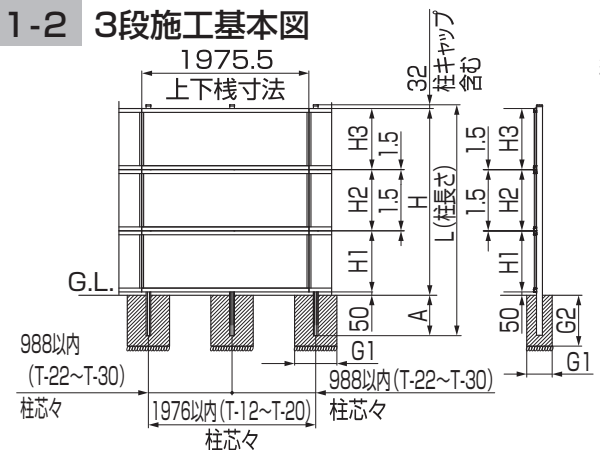


図 1-3

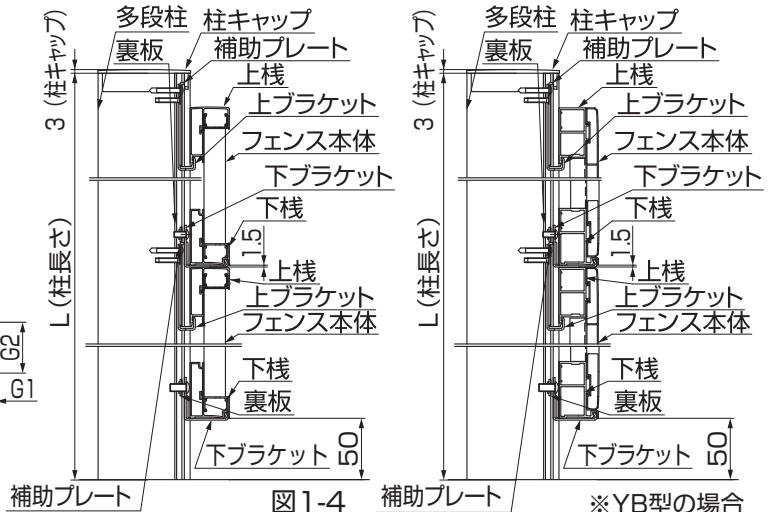


図 1-4

※YB型の場合

表1-1 2段施工基本寸法表

呼称	H	L(柱長さ)	H1・H2		A(埋込寸法)	G1	G2	G3	備考
T-12	1131.5	1459.0	540	540	300(埋込基準線)	400	400	300	—
T-14	1311.5	1639.0	540	720	300(埋込基準線)	400	400	300	—
T-16	1511.5	1889.0	540	920	350(埋込基準線)	500	500	300	—
	1491.5	1889.0	720	720	370(埋込基準線20mm下)				
T-18	1691.5	2069.0	720	920	350(埋込基準線)	500	500	300	—
T-20	1891.5	2319.0	920	920	400(埋込基準線)	500	500	300	—
T-22	2091.5	2482	920	1120	363(埋込基準線下37mm)	500	600	300	※1
T-24	2291.5	2719.5	1120	1120	400(埋込基準線下77mm)	500	600	300	

表1-2 3段施工基本寸法表

呼称	H	L(柱長さ)	H1・H2・H3			A(埋込寸法)	G1	G2	G3
T-18	1673.0	2069.0	540	540	540	367(埋込基準線上17mm)	500	500	300
T-20	1853.0	2319.0	540	540	720	437(埋込基準線上37mm)	600	600	300
T-22	2053.0	2482.0	540	540	920	400(埋込基準線)	500	600	300
	2033.0	2482.0	540	720	720	420(埋込基準線上20mm)			
T-24	2233.0	2719.5	540	720	920	457(埋込基準線下20mm)	500	600	300
	2213.0	2719.5	720	720	720	477(埋込基準線)			
	2253	2719.5	540	540	1120	437(埋込基準線下40mm)			
T-26	2433.0	3019.5	540	920	920	557(埋込基準線下20mm)	600	700	300
	2413.0	3019.5	720	720	920	577(埋込基準線)			
T-28	2613.0	3219.5	720	920	920	577(埋込基準線)	600	700	300
T-30	2813.0	3419.5	920	920	920	577(埋込基準線)	600	700	300

お願い

●2段施工でT-12サイズのフェンスを使用する際は988mm以内のピッチで柱施工してください。(図1-2参照)

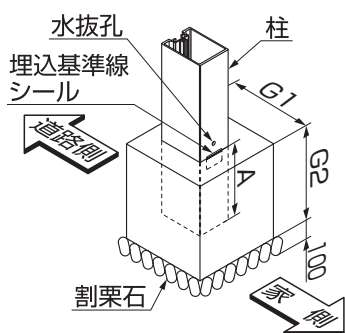


図1-5 独立基礎の場合

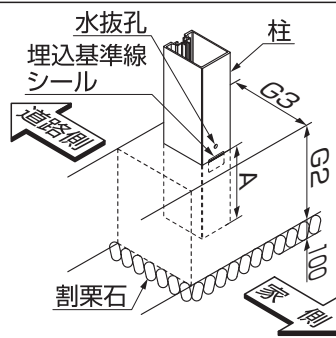


図1-6 連続基礎の場合

注意

- 柱はブロックに施工しないでください。高尺のため強い風圧を受け、飛散事故の原因になります。
- 基礎が沈降したり傾いたりすることがあるため、必ず割栗石を敷いてください。

お願い

- 埋込みは、埋込基準線上面を基準に上表を参照して行ってください。(表1-1, 表1-2参照)

2. フェンス本体の取付け

2-1 下ブラケットの取付け

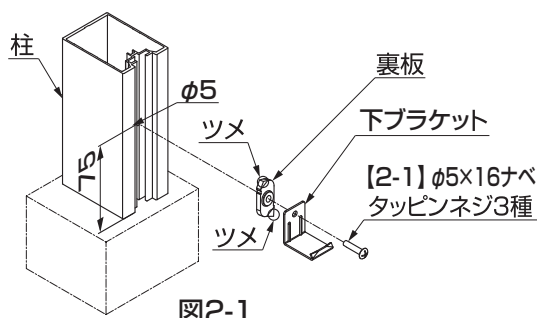


図2-1

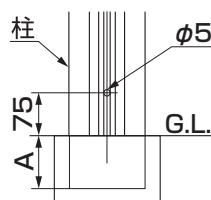


図2-2

- ①下ブラケットと裏板を【2-1】で仮止めしてください。

お願い

- 裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を下ブラケットに向けてください。(図2-1)

- ②図のA+75mmにφ5mmの孔加工を行ってください。(図2-2)

お願い

- 必ずφ5mmの孔をあけてください。下ブラケットはこの孔をあけないと取付けられません。

- ③下ブラケットを柱に【2-1】でしっかりと固定してください。

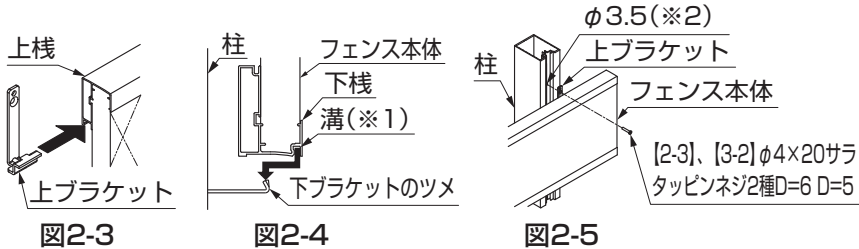
お願い

- 【2-1】のネジを回した時、裏板が回転し、下ブラケットの上辺と平行になる位置で固定することを確認してください。

2. (つづき) ※すきま隠し材は上段フェンスを設置する前に取付けてください。

2-2 フェンス本体の取付け (1段目)

(1) YB型以外の場合



- ①フェンス本体の上棧に上ブラケットを差込んでください。(図2-3)
- ②下棧の溝(※1)に下ブラケットのツメが入るようにフェンス本体を柱に取付けてください。(図2-4)
- ③上ブラケットの皿孔に合う柱の位置にφ3.5(※2)の孔加工を行なって、[2-3]、[3-2]で固定してください。(図2-5)

(2) YB型の場合

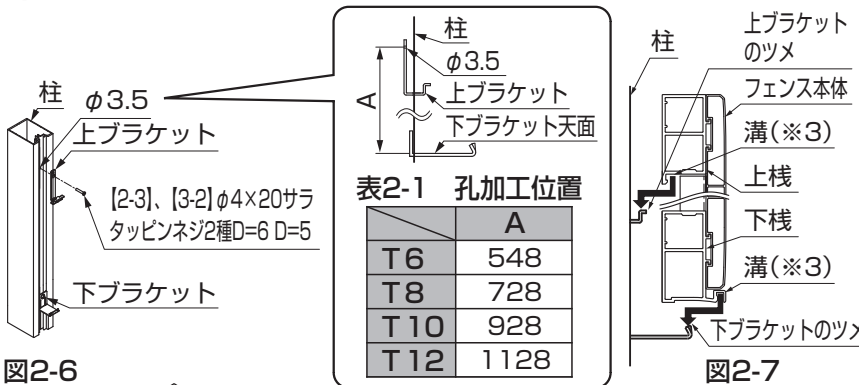


表2-1 孔加工位置

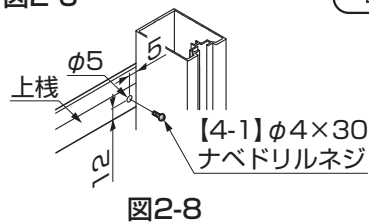
	A
T6	548
T8	728
T10	928
T12	1128

- ①柱にφ3.5の孔加工(表2-1)を行なって、上ブラケットを[2-3]、[3-2]で仮止めしてください。(図2-6)
- ②フェンス本体の溝(※3)に上下ブラケットのツメが入るようにフェンス本体を柱に取付けてください。(図2-7)

お願い

- 胴縁の影響で取付けづらい場合は、先に胴縁がないところに取り付けてから正しい位置にずらしてください。

- ③①で仮止めした[2-3][3-2]を本締めしてください。



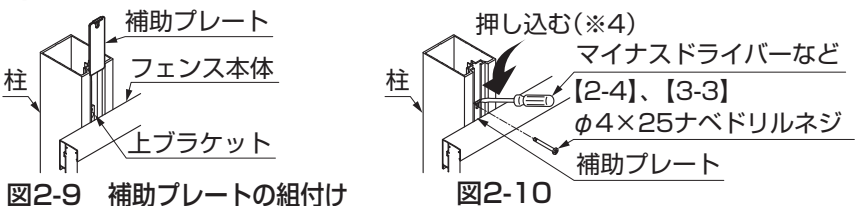
補足

- [4-1]はフェンス本体が左右にずれないようにする為のネジです。
- 柱の内々または、柱の外々側になる場所に取付けてください。

お願い

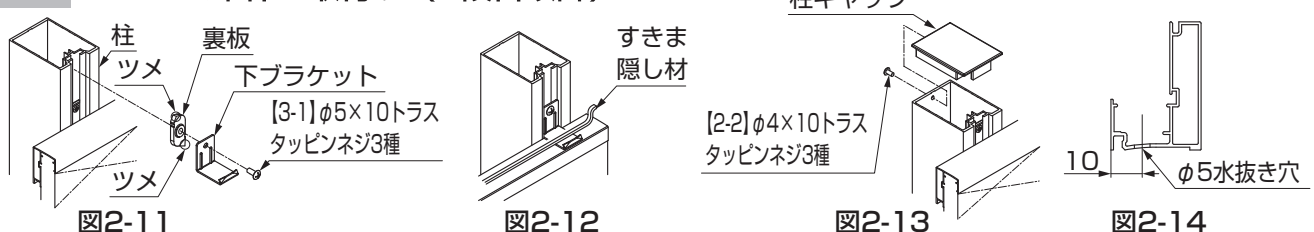
- フェンス1スパンのみでかつ、フェンス本体が1段の場合、または本体を離して多段施工する場合は[4-1]を上棧へ取付けてください。(図2-8)

(3) 補助プレートの取付け



- ①補助プレートを柱の上からスライドして差込み、マイナスドライバー等で押し込んで(※4)上ブラケットの孔とあわせて、[2-4]、[3-3]で固定してください。(図2-9、図2-10)

2-3 フェンス本体の取付け (2段目以降)



お願い

- 裏板には表裏があります。角部にツメが立っている側を下ブラケットに向けてください。(図2-11)
- 水が抜けにくい場合はフェンス本体の中心付近の位置にφ5の水抜き穴をあけてください。(図2-14)(※YB型除く)

- ①下ブラケットと裏板を[3-1]で仮止めしてから、柱に[3-1]でしっかりと固定してください。(図2-11)
- ②フェンス本体上棧の上部にすきま隠し材を貼り付けてください。(図2-12)
- ③2-2フェンス本体の取付け(1段目)と同じように2段目以降のフェンス本体を取付けてください。(図2-3～図2-10)
- ④柱キャップを取付けて[2-2]で固定してください。(図2-13)

取説コード

C395

JZ2619459F
201001A_1001
201707G_1049